

令和 5 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 6 年 2 月 9 日

江別市立中央中学校

1 本年度の重点目標

「気づき、考え、工夫する、主体的に自他の成長のために行動する生徒」の育成

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	年度の重点 「気づき、考え、工夫する、主体的に自他の成長のために行動する生徒」の育成	B	さまざまな場面で生徒の「主体性」をはぐくむ学びや行動を促すことができた。次年度も学校経営方針の実現に向け、各部・係において新年度計画の立案に取り組みます。	A	A
(1) 教育課程・学習指導	(1) ①確かな学力の育成ーア 単元の指導計画を工夫し、ICT の効果的な活用や対話を重視した授業づくりに取り組み成果をあげている。(管内：重点 1・取組 1)	B	「対話を重視した授業改革」や「資質能力の育成を図る ICT 活用」の取組は大きく前進しました。「主体的・対話的で深い学び」や「ICT の効果的な活用」の推進は必須であり、これからの時代に生きる子どもたちに必要な資質能力を身に付けさせるため、引き続き研鑽に努めます。	A	A
	(1) ②豊かな心の涵養 考え、議論する道徳科の授業実践、学級活動・学校行事を通して成就感や達成感を高めるなど成果をあげている。	B	「道徳」の授業は、教科書を使った指導を基盤として、外部講師を活用して考えを深めることも合わせ、より一層計画的な指導の充実を推進します。	A	A
	(1) ③健やかな体の育成 保健体育の学習や学校行事、部活動等の取組を通して運動の楽しさや体力の向上に努め、成果をあげている。	B	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、実技の結果はおおむね良好な結果であり、部活動における結果も良好です。一方、調査結果では、運動や保健体育の学習に対して消極的な生徒も少なくないこと	A	A

			から、引き続き取組を推進していきます。		
(2) 生徒指導	(2) ①教育活動全体を通じた自己指導能力の育成 望ましい人間関係や基本的な生活習慣、規範意識の醸成を図る指導（教育相談、QU、いじめアンケート、情報モラル指導等）の充実により、生徒の自己指導能力の育成を図り、成果をあげている。	B	令和4年末に改訂された生徒指導提要では「常態的・先行的生徒指導」が重視されています。また、昨年4月に施行された子ども基本法では「子どもの意見表明と社会的活動への参画」が示され、これらが根拠となり、全国的に「校則の見直し」等の実践が進んでいます。教職員の生徒指導観の転換が求められているところであり、本校生徒指導部では、「自己指導能力」をテーマに取組を進めています。生徒会中心に自発的に行動する場面も増えており、「主体性」の育成については手ごたえを感じています。新年度に向けても継続課題として各分掌・係において計画的に育成に努めます。	A	A
	(2) ②生徒会主体のよりよい学校生活づくり 生徒会活動や特別活動を通じて、生徒が主体的に自他の学校生活をより良いものにしようとする行動を推進し、成果をあげている。	B		A	A
(3) 教職員の 資質能力の 向上	(3) ①研究発表会に向けた校内研究の充実 学校課題研究発表会の準備や、日常的な授業改善が、研修部、研究推進委員会、教科部会が計画的・効果的に実施され、成果をあげている。	A	10月27日に開催しました石狩管内学校課題研究発表会では、管内よりおよそ300名の教育関係者にご来校いただき、10学級・全教科の授業公開とともに、3年間の取組の成果を発表することができました。今後も組織的な研修を継続し、生徒の学びの質の向上に取り組みます。	A	A
	(3) ②今日的な課題に関する校内研修の推進 石教研・江教研活動をはじめ、自ら主体的に自己研鑽に励み、教育の動向や新たなニーズに対応する研修に努め、成果をあげている。	B		A	A
(4) 特別支援教育・ 生徒理解	(4) ①個別の教育支援計画・指導計画に基づく適切な支援・指導 特別支援委員会の開催や、コーディネーターと学年部・担任と連携しながら、一人ひとりの生徒の実態に応じた支援の充実を図り、成果をあげている。	B	通常学級における特別な支援を必要とする生徒は急激に増加していますが、担任、学年部、コーディネーター、関係機関と連携しながら個に応じた指導の充実に努めているところです。現在、市教委とともに、通常学級に在籍する生徒を対象とする通級指導教室の設置も検討しているところです。	A	A
	(4) ②小学校との連携した取組 接続する小学校との連携等により、支援の必要な生徒や家庭環境に課題のある生徒について情報共有に努め、指導や支援に成果をあげている。	B		A	A

			き努めていきます。		
	(4) ③多様な学びの場を含めた学習機 会の確保と学習内容の充実 SSW、SC、適応指導教室(すぽっとケア) との連携や、登校支援室の設置、オンラ イン授業等により、個々の状況に応じた 学びの場の提供や支援の充実が図られ、 成果をあげている。	B	本年度より、校内に登校 支援教室を設置し、前期 の週1回から後期は市 より登校支援員の配置 もあり週2回へ実施日 数を拡大しました。ま た、感染症対応により開 始したオンライン学習 は現在もニーズに応じ て継続しており、今後 も可能な限り、個に応 じた学びの場の充実に 努めていきます。	A	A
	(5) ①地域との連携・協働の推進 学校運営委員会(コミュニティ・スク ール)やPTA、地域との連携や、SC、SSW、 特別支援教育支援員、学習サポート教員、 教育業務支援員などの専門性のある職員 とともに「チーム学校」としての協働体 制の充実が図られ、成果をあげている。	B	PTAについては、サポ ーター体制が定着し、新 規に生徒とともにガラ ス清掃を行うなど、成 果がありました。生徒や 家庭の抱える課題は 複雑化しており、SSW やSC、関係機関と連 携した相談体制の充 実も図っているところ であり、今後もより 強固なチーム学校体 制の構築を進めます。	A	A
(5) 家庭 地域 との 連携 ・ 小中 一貫 教育	(5) ③保護者・地域住民の理解の促進 ーア 日常からの電話連絡や教育相談、家庭訪 問に加え、CS、学校HPやメール配信、通 信、懇談会、PTA活動等の情報発信や話 し合いの場により、学校経営方針や学校 の取組について、保護者・地域の理解が すすみ、成果をあげている。(管内:重点3 ・取組4)	B	学校HPやメール配信サ ービスの活用が定着し、 情報発信や欠席連絡、ア ンケート集約等、双方向 のやり取りも増加して います。引き続き、教育 活動の可視化を図り、理 解を進めたいと考えま す。	A	A
	(5) ③保護者・地域住民の理解の促進 ーイ 保護者・PTAや地域住民は、本校の教育活 動に主体的に参加したり、意見・感想を 述べたりしている。(管内:重点3・取組 5)	B	感染症の分類移行によ り、保護者が来校する場 が増加しました。今後も 保護者・地域との連携・ 協働を大切にして、地 域とともにある学校づ くりを進めていきたい と考えます。	A	A
	(5) ④小中一貫教育の推進 授業体験や部活動体験、検定の合同実施 などの各種事業に加え、各部会や教科部 会の取組、スタンダードの実践等により、 中学校区でめざす子ども像やサブ目標 (重点目標)の実現に向けて、成果を あげている。	B	本年度より小中一貫教 育が本格実施となりま した。3校の主幹教諭が 推進役となり、校区ス タンドの作成や各教科 における重点指導項 目の設定等、大きな成 果をあげているところ です。また、10月の学 校課題研究発表会では、 2校の小学校から全教 員が参加するなど、充 実した1年となりました。 来年度は事務局校とし て、中央中学校区の中 心となって取組を推 進していきます。	A	A

(6) 働き方改革	(6) ①働きがいがあり、職能の向上に繋がる学校改善 学校経営の参画意識を持ち、自らの業務の遂行とともに、他の業務内容や進捗にも目を配り、声をかけあい高めあうなど、教職員が支持的風土の中でやりがいを感じながら業務を遂行する職場環境となっている。	B	研究発表会の取組を通して、初任段階教員を中堅層、ベテラン層が学年部会や分掌、教科部会で育てるとともに、互いに成長しあう環境が整ってきた1年でした。今後も教職員一人一人がやりがいを持ち、生き生きと働くことのできる職場づくりに努めていきたいと考えます。	A	A
	(6) ②「江別市立学校における働き方改革推進計画」に則った取組 学校における働き方改革について、学校閉庁日や定時退勤日等の在校等時間の縮減の取組や部活動の在り方に関する方針の履行等のほか、工夫した取組により、成果をあげている。	B	学校における働き方改革については、校務の情報化や学校閉庁日、定時退勤日の設定のほか、留守番電話の設置、メール配信サービスの導入等、取組を進めているところです。在校等時間が80時間以上上回っている教職員は減少しているものの、45時間以上上回る教職員の数は減少してはいませんが、抜本的な改善には至っていません。コアチーム会議等を活用し、業務改善に向けた具体の取組を推進し、さらなる改善に努めます。	A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正であると思います。 ・宿泊学習を利用しての企業訪問や職場体験は少人数のグループでグループに任された面が多くあり、自分たちで考え行動する、そして社会体験するというとても大きなよい経験となったと思います。実践的な学習の大切さを感じました。 ・ICTの効果的な活用は今後の社会には必要不可欠であり、とてもありがたい。 ・小中一貫教育による成果も見えてきており、引き続き充実させていただきたい。 ・不登校の生徒が増加しているが、スクールカウンセラーや適応指導教室等への専門的な相談に加え、登校支援教室やオンライン授業、適応指導教室などの学びの環境の充実が図られている。PTAや地域としてもサポートできないことがないか検討したい。 ・働き方改革に関わり、部活動の在り方について、地域移行や部活動指導員の導入について、引き続き情報提供や検討が必要である。 					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない